

宮崎県日向市（国内 26 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 15 日実施）

令和 2 年 12 月 15 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部にあり、農場の周囲は田畑や竹藪に囲まれている。
- ② 農場から約 100m の距離に数 m 幅の水路があるが、大きな川やため池等は近隣にはなかった。
- ③ 当該農場には開放鶏舎 4 棟があり、発生時は 3 つの鶏舎で肉用鶏が飼養されていた。発生鶏舎は、農場敷地の中央付近に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 12 月 7 日に、発生鶏舎の隣接鶏舎で死亡羽数が 24 羽に増加したため、同日、家畜保健衛生所が立ち入り検査を行い、簡易検査を実施したところ陰性であった。なお、この日は急激な気温の低下があり、この際の死亡鶏は通風口に近い部分で死亡する等寒冷による死亡の特徴が認められた。その後も同程度の死亡羽数が継続し、寒冷の影響と考えた。
- ② 12 月 13 日夕方に出荷前準備とともに鶏の健康確認を行ったところ、死亡羽数は前日より減少していた。しかし、同日夜に出荷作業を担当した作業員により、発生鶏舎でのみ 50~60 羽の死鳥が確認されたことから、系列会社の担当者が簡易検査を実施したところ、陽性反応が確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 管理人によると、当該農場では、通常の飼養管理を 2 名の従業員が行っており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていた。この 2 名が他農場で作業を行うことはなかったとのこと。
- ② 食鳥処理場への出荷作業は、作業の委託を受けた業者が実施しており、通常、農場の従業員が立ち会うことはなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と手袋、長靴を使用していた。また、鶏舎毎に専用の長靴と踏み込み消毒槽を設置していたが、手袋の交換や手指の消毒は実施していなかったとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 管理人によると、飼養鶏への給与水は、水道水を使用していたとのこと。
- ④ 管理人によると、死亡鶏については、農場入口の冷凍庫に保管するか、かごに入れて、カバーを被せておき、そこから回収業者が回収していた。この際、回収車両が農場内に入ることはなかったとのこと。
- ⑤ 管理人によると、当該農場では、農場ごとオールイン・オールアウトしており、数日に渡って各鶏舎を順次オールアウトした後、鶏舎の洗浄・消毒を実施するとともに、鶏糞を業者に委託し、排出しているとのこと。
- ⑥ 管理人によると、普段から鶏舎周囲に消石灰を散布していたとのこと。
- ⑦ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際には、動力噴霧器による消毒を行っていたとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎は平飼い鶏舎で、側面は金網の外側にロールカーテンが設置されており、鶏舎の後端に設置された換気扇で排気する方式であった。管理人によると、発生時には、上側のロールカーテンを 20cm 程度開き、また、発生の 2 日前からは、防鳥ネットを設置した上で入口の戸を開放し、換気を行っていたとのこと。
- ② 発生鶏舎の金網（約 2cm 角）には目立った破損はなく、外壁の破損部分も発泡フォーム等で補修されていたが、一部に幅 2cm 程度の隙間が認められた。
- ③ 管理人によると、鶏舎内でネズミを見ることはないとのこと。調査時にも、発生鶏舎ではネズミの痕跡は認められなかった。また、殺鼠剤によるネズミ対策を行っていた。
- ④ 管理人によると、農場内でカラスやネコを見ることはあるが、鶏舎内でこれらの野生動物を見ることはなかったとのこと。